

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 29 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370924

研究課題名(和文) 19世紀大陸ヨーロッパにおける地理学と公共空間の偶有的接合

研究課題名(英文) The contingent articulation between geography and public spaces in nineteenth-century continental Europe

研究代表者

島津 俊之 (SHIMAZU, Toshiyuki)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号：60216075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、19世紀の大陸ヨーロッパを例として、広義の地理学と、非専門家の参入を許容する公共空間との、偶有的な接合の諸形態を解明することを目的とした。図書館や文書館、そして現地での資料収集は、ドレスデン、ミュンヘン、アントワープ、パリ、ブリュッセル等で行われた。結果として、講演会場や展覧会場、そして広場や公園といった公共空間は、様々な状況のもとで、地理学の思想と実践を一般大衆に浸透させる場として、また、大衆の視線が当時の地理学の内実に反作用を及ぼす場として機能したことが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study aimed at shedding light on the various forms of the contingent articulation between geography in its broadest sense and public spaces allowing the participation of lay people in nineteenth-century continental Europe. Library, archival and field research was conducted in Dresden, Munich, Antwerp, Paris, Brussels and others. As a result, it was elucidated that public spaces, including lecture and exhibition venues, public squares and gardens, have functioned, under different circumstances, as a site where geographical thoughts and practices penetrated into the general public and the public gaze in turn has influenced the content of geography in those times.

研究分野：人文地理学

キーワード：地理学史 地理学展覧会 公共空間 国際地理学会議 博覧会

1. 研究開始当初の背景

地理学史研究の国際的トレンドが、アカデミック地理学者の学説を時系列的に並べるだけの学説史的アプローチから、多様な地理思想や地理的实践を同時代の政治社会的コンテクストに位置付けて論じるコンテクスチュアル・アプローチへとシフトして、すでに三十年以上もの歳月が経過している。これは、歴史学におけるアナル学派の台頭に伴う事件史から社会史へのシフトに比すべき大きな地殻変動であったが、後者のトレンドを準備したのは、いうまでもなく国際地理学連合 (IGU) の地理思想史コミッションであった。これは 2008 年以降、地理学史コミッションと名を改め、現在に至るまで精力的な活動を展開している。2013 年 8 月の IGU 京都地域会議で地理学史コミッションが二つのセッションを開催し (一つは「ジェンダーと地理学コミッション」との共催)、合計 28 本ものペーパーを集めてセッションを成功に導いたことは、日本における地理学史・地理思想史研究の戦前から続く長い歴史のなかでも記憶に残る出来事であった。

地理思想史から地理学史へのコミッションの名称の変化は、測量や地図製作、探検や旅行といった多様な地理的实践へと研究対象が広げられたことによる。むろんアカデミック地理学者の学説史が放擲されたわけではなく、そもそも故竹内啓一教授とアンヌ・バッティマー教授が主導した地理思想史コミッションの関心は、アカデミック地理学・官庁地理学・民間地理学の相互交流にこそあった。こうした研究関心の下に、物質性やジェンダー等の新たな視点を加味して開催されたのが、IGU 京都地域会議における地理学史コミッションの二つのセッションなのであった。これらは “Languages, Materiality and the Construction of Geographical Modernities” 及び “History of Geography, Geographical Thought, Practice, and Gender” と題され、アカデミック地理学者から民間の地球儀メーカーに至るまでの、多彩な思想・実践に関するペーパーが読まれた。

本研究における研究代表者の島津は、このうち前者のセッションに、地理学史コミッション・チェアーのハコボ・ガルシア＝アルヴァレス教授とともに共同オーガナイザーとして関与し、“Installing Geography in the Open Air: The Emergence of the Statues of Geographers in Late Nineteenth-Century Belgium” と題するペーパーを読んだ。また、2014 年 8 月にポーランドで開催予定の IGU クラクフ地域会議において、地理学史コミッションと政治地理学コミッションのジョイントセッション “What (Political) Geography Ought to Be? Theoretical Approaches to and Historical Perspectives on Geography and Geopolitics as Instruments of Peace” に、政治地理学コミッション・チェアーのエレナ・デラグネーゼ教授とともに共同オーガナ

イザーとして関与することになった。

かかる地理学史コミッションの活動は、研究代表者の十数年にわたる研究関心に沿ったものであり、IGU 京都地域会議のペーパーでは、野外に据えられた地理学者の彫像が、その可視性・物質性を基盤としていかに 19 世紀後半のベルギー国民に地理学の存在感をアピールするものであったかを論じた。このペーパーは、ハコボ・ガルシア＝アルヴァレス教授、チャールズ・ワトキンス教授、ジャンイヴ・ピュヨ教授、そしてヴァンサン＝ベルドゥレイ教授から、いずれも高い評価をいただいた。研究代表者はこの京都会議での国際的評価に大きく勇気付けられ、野外の彫像のみならず、それを含めた広義の公共空間と、広義の地理学の偶有的接合とその帰結という、より多くの事例に適用可能な、包括的かつ汎用性のある研究課題を着想するに至ったのである。

2. 研究の目的

19 世紀のヨーロッパ諸国では地理学が重視され、公共空間における地理学の存在感は現代のそれを凌駕していた。この側面への着目は、国際的にみて地理学史研究のフロンティアとなる可能性を秘める。本研究は、広義の地理学と、非専門家の参入を許容する広義の公共空間が、いかなる条件や意図の下で偶有的に接合され、結果的に何が生み出されたのかを解明することをめざす。かかる偶有的接合とその帰結は、近代という歴史的コンテクストを共有しつつ、国家毎の地域性を反映して多様であると予想される。本研究では、ドレスデンにおける地理学協会の設立、ミュンヘンにおける日本芸術展覧会の開催、国際地理学会議における地理学展覧会やアントワープにおける地図・民族・海洋博覧会の開催、パリの公共空間における地理的彫像の設置、等を事例として、比較研究に基づき、地理学と公共空間の偶有的接合とその帰結にみられる一般性と多様性を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、ウェブを通じた文献資料検索、ウェブを通じた文献資料閲覧・複写 (購入)・読解、国内の資料保存機関における文献資料閲覧・複写 (購入)・読解、外国の資料保存機関における文献資料検索・閲覧・複写 (購入)・読解、外国における現地調査 (資料購入・写真撮影・聞き取り調査)、研究成果の取りまとめ (学会発表・論文執筆)、の六段階からなる。三年に亘る研究期間の各年は、いずれも ~ の六段階の作業に充てられた。

4. 研究成果

平成 26 年度は、ウェブを通じた資料調査や、国内での資料調査を行うとともに、ドレスデン及びミュンヘンにおいて、それぞれ資

料調査や現地調査を行った。ドレスデンでは、ザクセン州立・ドレスデン工科大学図書館において、ドレスデン地理学協会に関する有益な資料を収集することができた。ミュンヘンに関しては、お雇い外国人として日本の地質調査の進展に大きな役割を果たしたエドムント・ナウマンが、自然地理学・地質学の教授資格をミュンヘン大学で取得した後に、バイエルン王国がミュンヘンに建設した水晶宮 (Glaspalast) において、1887年7月31日から10月15日まで、「日本美術展覧会」を催していたことが新たに判明し、その調査を二度にわたって行った。その結果、この展覧会は、地理学者としても知られ、ミュンヘンで1866年に亡くなったフィリップ・フォン・シーボルトが同地に遺したコレクションとも関連を有すること、ナウマンの展覧会は会場に日本らしさを漂わせる空間的演出がなされ、地理学者としての資質がそこに顕われていたこと、その空間的演出は現地で好評を博したこと、等を明らかにすることができた。この研究成果は、平成27年7月にロンドンで開催された国際歴史地理学会 (ICHG) で発表すべく、「Creating Japanesque Landscapes in the German Crystal Palace: Edmund Naumann and the 1887 Japanese Art Exhibition in Munich」と題するアブストラクトを投稿して受理された (学会発表)。また、本研究課題に関連して、ポーランド・クラクフで開催された国際地理学連合地域会議において発表を行い、その成果を欧文論文として公表した (学会発表、雑誌論文)。この論文は、Academia.eduにおいて49回閲覧され、また「1. 研究開始当初の背景」で触れたエレナ・デラグネーゼ教授がイタリアの権威ある査読付電子ジャーナルに発表した論文 (Elena dell'Agnese, What (political) geography ought to be. La geografia politica fra la pace e la guerra, *Semestrare di Studi e Ricerche di Geografia*, Vol.27, No.1, 2016, 109 - 121) に引用されるなど、国際的な評価を得ている。

平成27年度は、7月にロンドンで開催された国際歴史地理学会議 (ICHG) で前年度の研究成果を発表した (学会発表)。また同月にアントワープにおいて、1902年に開催された「地図・民族・海洋博覧会」に関する資料を収集するとともに、国際地図学史会議 (ICHC) に出席して有意義な知見を得た。3月にはパリを訪れ、国立公文書館等で資料調査を行うとともに、彫刻家ジャン＝パティスト・カルポーが製作した地理的彫像の現地調査を行った。一つはルーヴル美術館フロール館の外壁屋上に据えられた「帝国フランス」であり、もう一つはパリ天文台北側の「大探検家庭園」の南端にある「世界の四大陸」である。特に後者は、1867年から1874年にかけて整備された大探検家庭園とともに、本初子午線の地位をグリニッジと争ったパリ子午線を物質化・象徴化すべく設置されたことが判明し

た。1875年にパリで開催された第3回国際地理学会議では、1871年における第1回のアントワープ会議での議案に抗して、パリ子午線を本初子午線とすることが提議されたのであった。地理学と公共空間の芸術作品を媒体とした偶有的接合を論じるうえで、この発見は極めて重要である。さらに、1878年のパリ万国博覧会でトロカデロ宮殿に設置された6体のブロンズ像 (ヨーロッパ・南北アメリカ・オセアニア・アジア・アフリカを象徴する) が、オルセー美術館前の広場に据えられていることが判明し、その現地調査も行った。また、2016年8月に北京で開催された第33回国際地理学会議に提出したアブストラクト “Opening Geography to the General Public: Towards a Genealogy of the International Geographical Exhibitions in Europe (1871-1902)” が受理された (学会発表)。そこでは、1871年のアントワープにおける第1回国際地理学会議に付随する地理学展覧会から、1902年のアントワープにおける地図・民族・海洋博覧会に至る地理学展覧会の系譜をたどるなかで、博覧会の会場を中心とする公共空間と地理学の思想・実践がどのような時空間的変異のなかでいかに偶有的に接合してきたのかを論じた。また関連論文として、外交という公共の場における近代地図帳の意義に関する英文論文を、ベルギーのブリュッセルで刊行される査読付国際誌に発表した (雑誌論文)。この論文は、翌年に刊行された地図学史家マルグリット・シルベストル氏の大著 (Marguerite Silvestre, *Philippe Vandermaelen, Mercator de la jeune Belgique*, Bibliothèque royale de Belgique, 2016, 568p.) に引用され、また地図学史の権威ある国際誌 *Imago Mundi* で紹介されるなど (Nick Millea, Literature for 2014 to 2016 in the History of Cartography, *Imago Mundi*, Vol. 69, No.1, 2017, 137 - 157), 国際的な評価を得ている。

平成28年度は、9月にゴータやブリュッセル等において資料調査を行うとともに、翌年3月にはロンドンとオックスフォードにおいて補足的な資料調査を行った。研究成果の公表に関しては、地理学史に関連する短い総説を権威ある査読付雑誌『人文地理』に発表するとともに (雑誌論文)、8月に北京で開催された第33回国際地理学会議において、前年度の研究成果を発表した (学会発表)。また、地理学展覧会のメインの展示物である地図や地図帳に関して、関連する発表を12月に行った。さらに、19世紀前半から後半にかけて、ベルギーのみならずヨーロッパにおける民間地理学の一大拠点であったブリュッセル地理学研究所が位置したモレンベーク地区の現状について、12月に香港で開催された第8回東アジアオルタナティブ地理学地域会議で発表した (学会発表)。そして、前年度のパリでの調査結果を、平成29年7

月にリオデジャネイロで開催予定の第 25 回国際科学技術史会議における地理学史コミッションの招待講演者の一人として発表すべく、“Personified Continents in Public Places: Art, Internationalism and Geography in Late Nineteenth Century Paris” という題目のアブストラクトを執筆して受理された。

三年間の研究期間を通じた本研究の全体的な成果としては、講演会場や展覧会場、そして広場や公園といった公共空間が、様々な状況のもとで、地理学の思想と実践を一般公衆に浸透させる場として、また、公衆の視線が当時の地理学の内実と反作用を及ぼす場として機能したことが明らかになったという。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

島津俊之, 学界展望 学史・方法論, 人文地理, 査読有, Vol.68, No.3, 2016, pp.299 - 303.

SHIMAZU, Toshiyuki, The Modern Atlas as Diplomatic Gift: Vandermaelen's Atlas de l'Europe and Dutch-Japanese Relations in the Mid-Nineteenth Century. *Maps in History (Newsletter of the Brussels Map Circle)*, 査読有, No.54, 2016, pp.12 - 14.

SHIMAZU, Toshiyuki, War, Peace and a Geographical Internationalism: The 1871 Antwerp International Geographical Congress. *Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University*, 査読有, No.50, 2015, pp. 97 - 105.

〔学会発表〕(計 5 件)

島津俊之, メルカトルとオルテリウスの地図と地図帳にみる日本との関わり. 日白修好 150 周年記念シンポジウム「文化・知の多層性と越境性へのまなざし 学際的交流と「ベルギー学」の構築を目指して」, 2016 年 12 月 11 日, 東京理科大学 (東京都千代田区).

SHIMAZU, Toshiyuki, Stigmatizing Molenbeek: Terrorism and the Negative Construction of Place Image in Japanese Media Discourse. 8th East Asian Regional Conference in Alternative Geography, 2016 年 12 月 7 日, Hong Kong Baptist University, Hong Kong (China).

SHIMAZU, Toshiyuki, Opening Geography to the General Public: Towards a Genealogy of the International Geographical Exhibitions in Europe

(1871-1902). 33rd International Geographical Congress, 2016 年 8 月 24 日, CNCC, Beijing (China).

SHIMAZU, Toshiyuki, Creating Japanesque Landscapes in the German Crystal Palace: Edmund Naumann and the 1887 Japanese Art Exhibition in Munich. 16th International Conference of Historical Geographers, 2015 年 7 月 6 日, Royal Geographical Society, London (United Kingdom).

SHIMAZU, Toshiyuki, War, Peace and a Geographical Internationalism: The 1871 Antwerp International Geographical Congress as a Peace Festival after the Franco-Prussian War. International Geographical Union Regional Conference in Krakow, 2014 年 8 月 21 日, Jagiellonian University, Krakow (Poland).

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕
特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島津 俊之 (SHIMAZU, Toshiyuki)
和歌山大学・教育学部・教授
研究者番号: 60216075

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者
なし